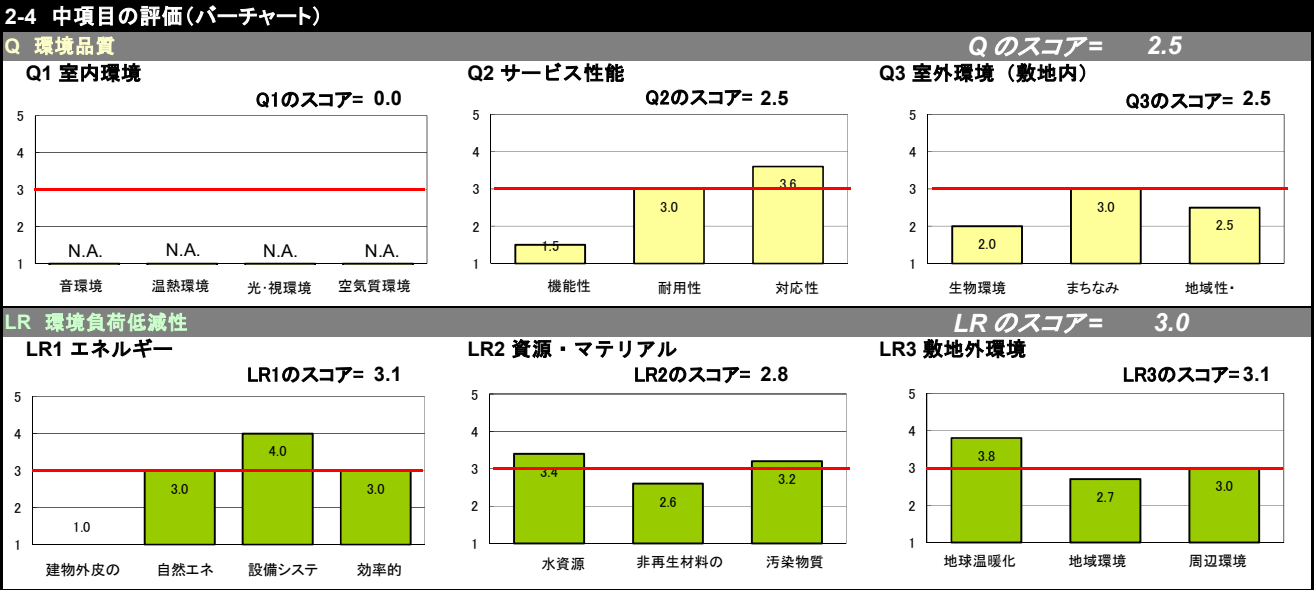
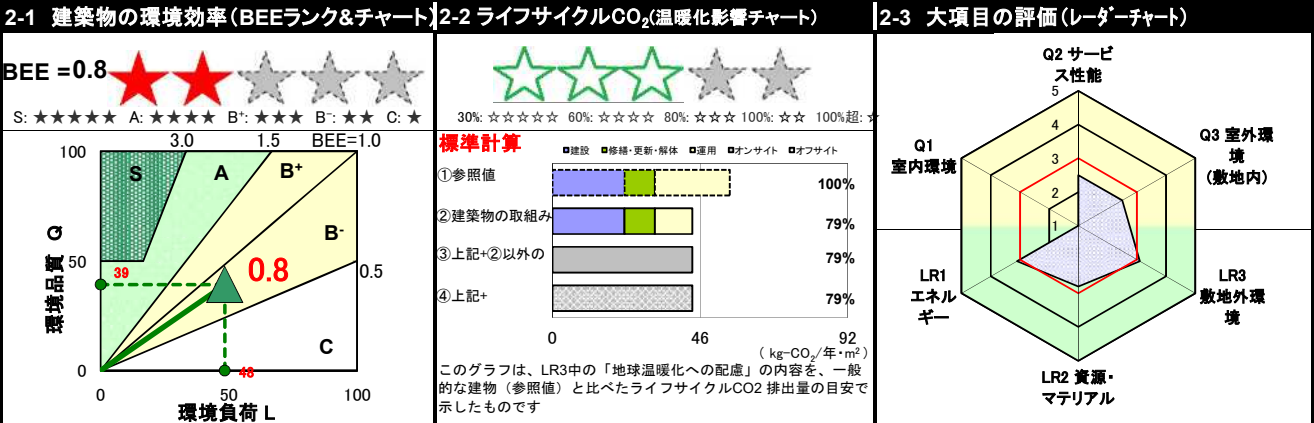


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

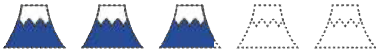
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	新佐久間FC新設工事 周波数変換	階数	地上4F、地下1F		
建設地	静岡県浜松市天竜区佐久間町蒲川	構造	RC造		
用途地域	指定なし、防火指定なし	平均居住人員	50 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2026年10月 予定	評価の実施日	2024年12月12日		
敷地面積	26,956 m ²	作成者	株式会社J-POWER設計コンサ		
建築面積	3,324 m ²	確認日	2024年12月12日		
延床面積	5,816 m ²	確認者	株式会社J-POWER設計コンサ		



3 設計上の配慮事項		
総合	LED照明設備の採用により一次エネルギー消費量の低減に配慮	その他
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
0	耐用年数の長い内装材及び配管材の採用	0
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明設備の採用	バイオトイレの採用 ODP及びGWPの低い断熱材の採用	ライフサイクルCO ₂ 排出率79%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要															
建物名称	新佐久間FO新設工事 周波数変換装置棟・本館				BEE	0.8	BEEランク	B-	★★						
2. 重点項目への取組み度															
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価								
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.2	/5					ふつつ								
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5					がんばろう								
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.5	/5					ふつつ								
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.6	/5					がんばろう								
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満							
3. 重点項目についての環境配慮概要															
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目										
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		3.2								
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐用年数の長い内装材の採用(床:タイルカーペット20年、壁:ビニルクロス貼20年、天井:ボード類30年) ④耐用年数の長い配管材の採用(雑排水管VP(B)、給水管VLP(B)、通気管VP(A))				Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能					
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備					
							3.2	3.2.1	③	昼光制御					
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数					
							2.2.2	⑤	外壁仕上げ材の補修必要間隔						
							2.2.3	⑥	主要内装仕上げ材の更新必要間隔						
							2.2.4	⑦	空調換気ダクトの更新必要間隔						
							2.2.5	⑧	空調・給排水配管の更新必要間隔						
							2.2.6	⑨	主要設備機器の更新必要間隔						
					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出					
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上									
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨建物の一次エネルギー消費量の低減(LED照明設備の採用)				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制					
						2			⑧	自然エネルギー利用					
						3			⑨	設備システムの高効率化					
						4	4.1		⑩	モニタリング					
						4.2		⑩	運用管理体制						
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水への取組み(パイオトイレの採用) ⑫分別が容易な工法の採用(軽鉄+仕上材) ⑬ODP及びGWPの低い断熱材の採用(吹付硬質ウレタンフォームA種1H)				LR-2	1	1.1		⑪	節水						
						1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無						
							1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無						
					2	2.1		⑫	材料使用量の削減						
						2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用						
						2.3		⑬	躯体材料におけるリサイクル材の使用						
						2.4		⑬	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						
						2.5		⑭	持続可能な森林から産出された木材						
						2.6		⑭	部材の再利用可能性向上への取組み						
					3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用						
		3.2	3.2.1	⑬	消火剤										
			3.2.2	⑬	断熱材										
			3.2.3	⑬	冷媒										
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮見付面積比 38.2% ⑮隣等間隔指標Rw 6.38				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮						
					2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善						
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.8								
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性					
								2.1.2	⑯	免震・制振性能					
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備					
							2.4.2	⑰	給排水・衛生設備						
							2.4.3	⑰	電気設備						
							2.4.4	⑰	機械・配管支持方法						
							2.4.5	⑰	通信・情報設備						
					“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)				得点		3.5				
						■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高 4.10m ㉑壁長さ比率 0.78				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
											3	3.1	3.1.1	㉑	階高のゆとり
			3.1.2	㉑						空間の形状・自由さ					
■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)				Q-3						3	3.1		㉒	地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.6								
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出					
						2			㉓	まちなみ景観への配慮					
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上					
	■敷地外環境対策 (⑱持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮見付面積比 38.2% ⑮隣等間隔指標Rw 6.38				LR-2	2	2.5		⑱	持続可能な森林から産出された木材					
					LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善					